

体験1, 2 記入用紙

グループメンバー名					

[illegible]

体験2 記入欄

体験3 記入用紙(課題1)

対 象 職 場

事業場名	
氏 名	

グループメンバー名					

作 業 名 (機械・設備)	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」+「～になる」と記述します)	リスクの見積り				リスク低減措置案	措置案想定リスクの見積り				備 考 (残留リスクについて)
		頻度	可能性	重篤度	リスク		頻度	可能性	重篤度	リスク	
(記入例) 選別作業	廃棄物を選別していたとき、作業者が革手袋をしていなかったので廃棄物に混入していた金属片で手を切る。	2	4	3	Ⅲ (9)	重機による作業に限る【作業の変更】	1	1	1	I (3)	
① 荷下ろし作業	ダンプがバックしているとき、誘導員がトラックの死角に入ってブレーキのタイミングが遅れたので、トラックと誘導員が激突し、足を骨折する。	2	4	6	Ⅳ (12)						
② 重機作業	重機で選別をしているとき、重機のアベレータから作業者が死角に入ったので、旋回したアームに作業者が激突し、全身を強打する。	4	4	10	Ⅳ (18)						
③ 重機作業	ホイールローダで廃材を移動しているとき、停止位置の目測を誤ったので、ピットに転落し、運転手が顔面・胸部を強打する。	2	2	6	Ⅲ (10)						
④ 選別作業	荷下ろしされた廃棄物の上で選別をしているとき、作業者が廃棄物の隙間に足を取られたので、転倒し、足を骨折する。	2	2	6	Ⅲ (10)						
⑤ 清掃作業	作業者が作業区域に残ったチリ等を掃除しているとき、床面につまずきピット内に転落し、足を骨折する。	2	2	6	Ⅲ (10)						

体験3 記入用紙(課題2)

対 象 職 場

事業場名	
氏 名	

グループメンバー名					

作 業 名 (機械・設備)	危険性又は有害性と発生のおそれのある 災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」+「～になる」と記述します)	リスクの見積り				リスク低減措置案	措置案想定リスクの見積り				備 考 (残留リスクについて)
		頻 度	可 能 性	重 篤 度	リ ス ク		頻 度	可 能 性	重 篤 度	リ ス ク	
(記入例) 選別作業	廃棄物を選別していたとき、作業者が革手袋をしていなかったので廃棄物に混入していた金属片で手を切る。	2	4	3	Ⅲ (9)	重機による作業に限る 【作業の変更】	1	1	1	I (3)	
① 回収作業	作業者がビットに入るとき、事前のガス検知の位置が悪かったので、換気不良で高濃度のガスが溜まっていることに気づかず、硫化水素中毒になる。	2	4	10	Ⅳ (16)						
② 回収作業	槽内に降りようとしたとき、片手でホースをかかえていたので、はしごの途中で手を滑らせて槽内に墜落し、底で頭部を強打する。	2	2	10	Ⅳ (14)						
③ 回収作業	汚泥の吸引を開始したとき、ホースを固定していなかったので、ホースが暴れて連絡係に当たり、転倒して腰を打つ。	2	2	6	Ⅲ (10)						
④ 回収作業	汚泥排出作業を開始したとき、槽内の汚泥の表面が固まっていたので、その下の汚水中に溶け込んでいた大量のガスに作業者が気づかず、吐出してきた硫化水素ガスで中毒になる。	2	6	10	Ⅳ (18)						
⑤ 回収作業	連絡係が作業の確認するとき、不注意で開放されたマンホールの位置を確認しなかったので、マンホールからビットに転落し、足を骨折する。	2	4	6	Ⅳ (12)						

課題1 解答例

対 象 職 場

事業場名
氏名

グループメンバー名					

作 業 名 (機械・設備)	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」+「～になる」と記述します)	リスクの見積り				リスク低減措置案	措置案想定リスクの見積り				備 考 (残留リスクについて)
		頻度	可能性	重篤度	リスク		頻度	可能性	重篤度	リスク	
荷下ろし作業	ダンプがバックしているとき、誘導員がトラックの死角に入ってブレーキのタイミングが遅れたので、トラックと誘導員が激突し、足を骨折する。	2	4	6	Ⅳ (12)	・誘導員はトラックの死角に入らないように教育の徹底 ・作業区域と運行区域の色別区分の実施	1	1	6	Ⅱ (8)	
荷下ろし作業	ダンプが屋外へ出るとき、ダンプの荷台を上げたまま走行したので、建屋の出入り口の上に激突し、運転手が胸部を打撲する。	2	2	6	Ⅲ (10)	・誘導員を配置 ・出入り口に一旦停止の標識を設置 ・ダンプ移動時の荷台チェックの徹底	1	2	6	Ⅲ (9)	運行の手順書を作成し、運転手に徹底する。 職場の管理者による指導の徹底。
荷下ろし作業	ダンプの荷台上でシートを外していたとき、運転手がシートで足を滑らせたので荷台から墜落し、頭部を強打する。	2	4	10	Ⅳ (16)	・シート外し場を特定し、作業台を設置 ・防網をはり、安全帯を使用	1	1	10	Ⅳ (12)	
重機作業	重機で選別をしているとき、重機のオペレータから作業者が死角に入ったので、旋回したアームに作業者が激突し、全身を強打する。	4	4	10	Ⅳ (18)	・作業区域と運行区域の色別区分の実施 ・作業開始時には警笛を鳴らす	1	1	10	Ⅳ (12)	
重機作業	重機で廃材を持ち上げ旋回しているとき、廃材をしっかり掴めていなかったので、廃材が落下し、近くの作業者の頭部に激突し、骨折する。	2	2	6	Ⅲ (10)	・作業区域と運行区域の色別区分の実施	1	1	6	Ⅱ (8)	
重機作業	ホイールローダで廃材を移動しているとき、停止位置の目測を誤ったので、ピットに転落し、運転手が顔面・胸部を強打する。	2	2	6	Ⅲ (10)	・ピットへの転落防止用車両止めを設置	1	1	1	Ⅰ (3)	
重機作業	ホイールローダで廃材を移動しているとき、作業者が死角に入ったので、ホイールローダーと作業者が激突し、全身を強打する。	2	2	10	Ⅳ (14)	・誘導員を設置 ・作業区域と運行区域の色別区分の実施	1	1	10	Ⅳ (12)	
選別作業	荷下ろしされた廃棄物の上で選別をしているとき、作業者が廃棄物の隙間に足を取られたので、転倒し、足を骨折する。	2	2	6	Ⅲ (10)	・作業変更(重機で山を低くする) ・作業手順書の見直し (山が低くなるまで廃棄物の上に上がらない)	1	1	1	Ⅰ (3)	
選別作業	荷下ろしされた廃棄物を手選別しているとき、新しい廃棄物をダンプから下ろしたので、その重みで廃棄物の山が崩れ、作業者が下敷きになる。	2	4	6	Ⅳ (12)	・作業手順書の見直し (ダンプの荷下ろしが完了するまで近寄らない)	1	1	6	Ⅱ (8)	
清掃作業	作業者が作業区域に残ったチリ等を掃除しているとき、床面につまずきピット内に転落し、足を骨折する。	2	2	6	Ⅲ (10)	・ピットの周囲に落下防止用の柵を設置(ホイールローダーが進入する搬入口は、取り付け取り外し可能なチェーンで防護)	1	1	1	Ⅰ (3)	

課題2 解答例

対 象 職 場

事業場名	
氏名	

グループメンバー名					

作 業 名 (機械・設備)	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」+「～になる」と記述します)	リスクの見積り				リスク低減措置案	措置案想定リスクの見積り				備 考 (残留リスクについて)
		頻度	可能性	重篤度	リスク		頻度	可能性	重篤度	リスク	
回収作業	作業者がピットに入るとき、事前のガス検知の位置が悪かったので、換気不良で高濃度のガスが溜まっていることに気づかず、硫化水素中毒になる。	2	4	10	IV (16)	・槽内の換気の徹底 (給気ファン、排気ファン、ジャバラダクト) ・汚泥槽の底部付近をガス検知器で確認 ・作業者にポケット型ガス警報機を装着	1	1	10	IV (12)	
回収作業	槽内に降りようとしたとき、片手でホースをかかえていたので、はしごの途中で手を滑らせて槽内に墜落し、底で頭部を強打する。	2	2	10	IV (14)	・はしごの昇降には、安全ブロックと安全帯を組み合わせる ・作業手順の見直し (ホースはロープ等でおろす)	1	2	6	III (9)	
回収作業	汚泥の吸引を開始したとき、ホースを固定していなかったので、ホースが暴れて連絡係に当り、転倒して腰を打つ。	2	2	6	III (10)	・ホースの固定具を使用 ・作業手順の再教育 (ホースを不必要に伸ばさない)	1	1	1	I (3)	
回収作業	タンク車に廃液を積み込むとき、ブレーキが不完全な上、車両を止めた場所が傾斜地だったので、連絡係とタンク車が激突し、全身を打撲する	2	2	6	III (10)	・タンク車のタイヤに輪留めの実施 ・作業手順書の見直し (輪留めが完了するまで、作業に取りかからない)	1	1	1	I (3)	
回収作業	マンホールのフタの着脱のとき、一人で作業を行ったので、作業者が腰をひねって痛める。	2	2	6	III (10)	・複数人での作業に変更 ・マンホールのフタを着脱するための用具の使用	1	1	1	I (3)	
回収作業	汚泥排出作業を開始したとき、槽内の汚泥の表面が固まっていたので、その下の汚水中に溶け込んでいた大量のガスに作業者が気づかず、吐出してきた硫化水素ガスで中毒になる。	2	6	10	IV (18)	・汚泥槽内を攪拌してから測定を実施 ・汚泥表面に部分的に穴を開け、測定を実施 ・ポケット型ガス警報機を装着	1	4	10	IV (15)	
回収作業	連絡係が作業の確認するとき、不注意で開放されたマンホールの位置を確認しなかったため、マンホールからピットに転落し、足を骨折する。	2	4	6	IV (12)	・取り外し式の防護柵を設置	1	1	1	I (3)	

